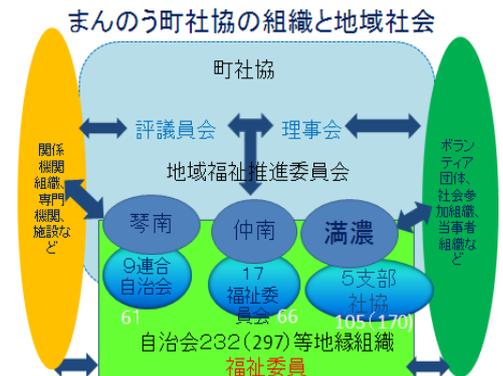


モデル事業名	限界集落緊急対策 「命見守り ほっと安心」のモデル集落事業
活動団体名	社会福祉法人まんのう町社会福祉協議会 琴南・満濃・仲南地域福祉推進委員会 ほっと安心委員会
ホームページ	http://www.manno-syakyo.jp/
所属／ 担当者名	社会福祉法人まんのう町社会福祉協議会 担当者氏名 (お問合せ先) 篠原宝子
連絡先	電話番号 (0877) 77-2991、Eメールアドレス manno-syakyo@mg.pikara.ne.jp
活動地域	香川県 まんのう町全域

● **活動地域の概要**

まんのう町は、香川県南西部に位置し、面積は約 194.33 平方キロメートル、町全域が過疎地域に指定されている、農山村である。人口 19,901 人 7,185 世帯、人口は、減少しつづける一方で高齢者のみの世帯や単身高齢者が増加しており、1 世帯の構成数は、2.77 人となっている。65 歳以上高齢者：6,055 人 高齢化率：30.4% (平成 24 年 1 月 1 日現在 まんのう町資料より)

単位自治会数：232 (297) 自治会  
民生委員児童委員：62 人 福祉委員：579 人



● **活動の内容**

(平成 22 年度の活動状況)

- まんのう町社会福祉協議会の単独事業として実施。  
モデル集落数 60 集落 1,263 世帯 (新規 6 集落 122 世帯 2 年目 10 集落 182 世帯 3 年目 44 集落 1,024 世帯)  
見守り体制の状況 見守られる人 609 人 見守る人 延べ 1,330 人 (実人員 613 人)
- 次年度以降の事業継続と全町への普及拡大について検討する。  
町の事業とし、町社協が委託を受ける。  
福祉委員規程を定め、福祉委員の設置基準や活動を明確にし、集落で福祉委員を選任する体制づくりをおこなった。

(平成 23 年度の活動状況)

「見守り 声かけ」をコミュニティ活動の基礎に位置づけ全町に広げていく。

- 見守り・声かけ活動を福祉委員活動の中心的活動として推進する。
  - ほっと安心カードを全世帯へ配布する。
    - 家族や集落内で緊急時の対応などを話し合う→つながりを深めるきっかけづくり。
    - 独り暮らし高齢者など自分で記入することが困難な世帯には、民生委員や福祉委員が援助する。→信頼関係やつながりをつくるきっかけづくり。
  - 福祉委員大会の開催。7 月 24 日 福祉委員・自治会長等 246 人の参加。
  - 町社協広報紙に「福祉委員の窓」のコーナーを設けた。
    - 見守り、声かけ活動を行うことの効果を広く周知する。

2、見守り 声かけ ほっと安心事業 (新規事業として町から受託) の実施。

①事業日程

- 町との委託契約 5 月 31 日
- 助成事業説明会 9 月 12 日・・・満濃地区 186 人  
9 月 16 日・・・琴南地区 49 人  
9 月 22 日・・・仲南地区 90 人
- 助成事業集落申請受付期間 8 月 19 日～9 月末
- 事業実施機関 10 月～ 3 月  
(ただし、事業費を伴う事業については、2 月末まで)
- 助成集落説明会 10 月 26 日
- 実績報告及助成金請求 3 月 1 日～3 月 15 日
- 助成金交付 3 月 15 日～3 月末



【助成集落説明会】→



【ほっと安心カード 表面】



【ほっと安心カード 裏面】

← 【助成事業説明会】

②事業内容

目的：「見守り 声かけ」により、集落内のコミュニケーションやつながりを促進させる。  
内容：助成対象事業実施集落へ助成金を交付することにより、見守り声かけ活動の推進を支援する。

事業別助成集落数：助成集落 60集落 4,068世帯

	助成事業	実施集落数
1	集落内での見守り・声かけ活動事業（必須事業）	60
2	集落内における地域マップ作成事業	20
3	集落内の安全性を重視した現地点検の巡回事業	19
4	通学路の点検や小中学生の登下校などの見守り声かけ事業	12
5	集落内または隣接している集落との情報交換会事業	34
6	福祉についての理解を深めるための研修会の開催事業	17
7	集落内の避難訓練及び安否確認の実施事業	11
8	集落内の炊き出し講習会の実施事業	12
9	隣接している集落間での合同の避難訓練及び安否確認の実施事業	3
10	隣接している集落間での合同の炊き出し講習会の実施事業	2
11	高齢者世帯及び高齢者単身世帯などの友愛訪問活動事業	15
12	見守り・声かけ・支え合い帯の編成事業	14



【散歩のついでに声かけ訪問】



【地域福祉MAPの見直し】



【炊き出し訓練】

## ● 今後の課題及び展望

### 【活動課題】

- 1、助成事業のリーダーには、自治会長になることが多いが、輪番制で年度で交代すると活動が休止状態になる集落も見受けられた。リーダー育成やリーダーを支援する仕組みが必要。また、見守り声かけ活動を主な活動とした福祉委員は、自治会長が兼務したり自治会長と同様に輪番にて変更していく集落もあり、意欲的に取り組むリーダーが存在する集落とそうでない集落との集落間の格差が生じてきている。
- 2、自治会のお寄りさんや自治会主催の冠婚葬祭などのコミュニティ活動が縮小されつつある。神社の祭りなどの伝統的な行事の維持が困難になったり、なげない助け合い、縁側や井戸端会議などもあまりみられなくなった。住民同士の交流活動を活性化するために、住民同士が集まって行う行事や協働活動を意識的に行うことや誰でも気軽立ち寄り、ほっとできる地域での居場所づくりの確保が必要である。
- 3、「他人の世話にはなりたくない。」「自治会の人には迷惑をかけたくない。」など恥の文化が根強く残っている。反面、依存的な意識をもっている人も少なくない。「お互い様」「助けられ上手」の意識づくり浸透させ、SOSを発信しやすい土台づくりの意識啓発や活動実践が課題である。
- 4、集落単位での見守りでは、自治会に加入していない人が漏れてしまう。もれなく見守りを行うには、自治会未加入者やアパート、新興住宅地などの自治会未設置地域へのテコ入れを町や地元自治会と、ともにすすめていくことが必要である。また、人口流出により自治会活動が衰退している集落についても、自治活動を支援しどのような方法で、見守り声かけ活動が展開できるのか自治会住民とともに検討していく必要がある。
- 5、見守られる人の異変など地域の情報はそこで生活している住民がいち早く気づく。どこに観点を置いて見守っていくのか？それぞれの生活に照らし合わせ個々に考えていくことが必要ということを投げかけていく。
- 6、見守り声かけ活動は、いろいろな機関や団体がそれぞれの目的により取り組んでいるが、有効な横のつながりがないままに活動している。課題解決にむけて、情報を共有し協働できる体制づくりが必要である。また、それらをコーディネートしていくコーディネーターが必要である。

### 【展望】

見守り声かけ活動をコミュニティ活動の基礎活動とし、相互扶助の精神や、「助けられ上手」の意識づくりを進め、地域で問題を発見し、解決していくコミュニティを再構築していく。

- ①見守り声かけ活動からちょっとした支援活動で地域生活が継続できる。見守り声かけ支え合い帯の活動を浸透させていく。
- ②福祉委員と民生委員の情報交換や集落のさまざまな活動を通して、地域の状況を把握するニーズキャッチシステムを構築する。
- ③関係機関がそれぞれの立場で連携し、集落間の協定や事業者との協定など見守り活動を支援していく体制づくりを構築する。